

4. 発生予察情報の発表

(1) 情報(警報、注意報、特殊報)の内容

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
警報				
注意報	6月16日	水稻	ヒメトビウンカ 縞葉枯病	1. 発生地域(対象地域) 県下全域 2. 発生程度 ヒメトビウンカ 多 縞葉枯病 やや多 3. 注意報発令の根拠 (1) 5月中下旬の小麦圃場及びイネ科雑草地(19地点、1地点当たり3～5圃場)におけるヒメトビウンカ(第1世代)の生息密度は、捕虫網による20回すくい取りあたり39.3頭(平成 8.9頭)であった(図、表)。 (2) イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率検定(ラテックス凝集反応法)の結果、保毒虫率は1.0%(平成 1.3%)であった(図、表)。 (3) 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.5頭(平成 0.0頭)、発生圃場率は80.5%(平成 14.0%)であった。縞葉枯病の発生は認めなかった(平成 発生を認めない)。 (4) 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稻、無防除)調査の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭(平成 0.0頭)、縞葉枯病の発生は認めなかった(平成 発生を認めない)。 (5) 6月5日のネットトラップ(諫早市)でヒメトビウンカが63頭捕獲され、6月では過去10年間で1日あたりの捕獲量としては最も多い。 2. 防除対策 (1) 今後、移植を行う圃場ではウンカ類に効果のある箱施薬剤を必ず施用する。 (2) 圃場でのヒメトビウンカの発生状況に注意し、発生が多い場合には防除を行う。 (3) 発病株を認めた場合は抜き取る。 (4) 窒素過多を避け適正な肥培管理に努める。

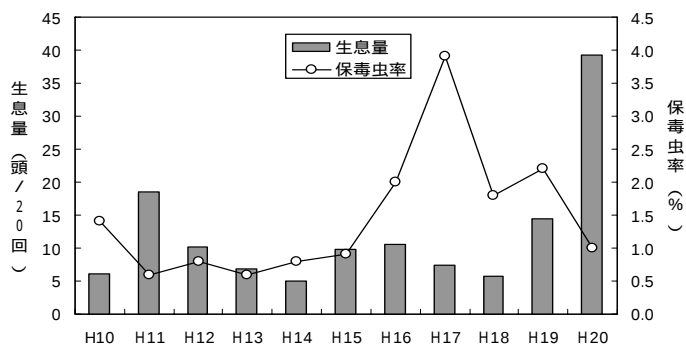


図 小麦圃場及びイネ科雑草地におけるヒメトビウンカ(第1世代)の生息量及びイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

				<table><tr><th colspan="4">表 各地点のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率と生息密度</th></tr><tr><th>調査地点</th><th>検定虫数 (頭)</th><th>保毒虫率 (%)</th><th>生息密度 注)</th></tr><tr><td>長崎市琴海戸根町</td><td>100</td><td>0</td><td>9.1</td></tr><tr><td>長崎市神浦丸尾町</td><td>97</td><td>2.1</td><td>4.7</td></tr><tr><td>西海市大瀬戸町</td><td>-</td><td>-</td><td>0.1</td></tr><tr><td>諫早市小野島町</td><td>150</td><td>0</td><td>151</td></tr><tr><td>諫早市森山町</td><td>200</td><td>1.5</td><td>140</td></tr><tr><td>諫早市多良見町</td><td>200</td><td>2</td><td>5.1</td></tr><tr><td>諫早市小船越町</td><td>150</td><td>0</td><td>184</td></tr><tr><td>大村市鈴田</td><td>200</td><td>2</td><td>144.9</td></tr><tr><td>東彼杵町三根</td><td>64</td><td>1.6</td><td>8.9</td></tr><tr><td>波佐見町岳辺田</td><td>200</td><td>0.5</td><td>66.8</td></tr><tr><td>雲仙市国見町神代</td><td>149</td><td>0.7</td><td>16.7</td></tr><tr><td>佐世保市長畑町</td><td>165</td><td>1.2</td><td>12.1</td></tr><tr><td>佐世保市重尾町</td><td>-</td><td>-</td><td>0</td></tr><tr><td>松浦市御厨町</td><td>59</td><td>0</td><td>0.9</td></tr><tr><td>平戸市紐差町</td><td>-</td><td>-</td><td>0.9</td></tr><tr><td>五島市本山</td><td>-</td><td>-</td><td>0.1</td></tr><tr><td>五島市富江町</td><td>-</td><td>-</td><td>0</td></tr><tr><td>壱岐市郷ノ浦町大原</td><td>-</td><td>-</td><td>0.6</td></tr><tr><td>壱岐市石田</td><td>-</td><td>-</td><td>0.6</td></tr><tr><td>合計(平均)</td><td>1734</td><td>1</td><td>39.3</td></tr><tr><td>平年</td><td>-</td><td>1.3</td><td>8.9</td></tr></table> 注) 生息密度は20回すくい取り当たりの頭数 保毒虫率検定はラテックス凝集反応法による	表 各地点のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率と生息密度				調査地点	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	生息密度 注)	長崎市琴海戸根町	100	0	9.1	長崎市神浦丸尾町	97	2.1	4.7	西海市大瀬戸町	-	-	0.1	諫早市小野島町	150	0	151	諫早市森山町	200	1.5	140	諫早市多良見町	200	2	5.1	諫早市小船越町	150	0	184	大村市鈴田	200	2	144.9	東彼杵町三根	64	1.6	8.9	波佐見町岳辺田	200	0.5	66.8	雲仙市国見町神代	149	0.7	16.7	佐世保市長畑町	165	1.2	12.1	佐世保市重尾町	-	-	0	松浦市御厨町	59	0	0.9	平戸市紐差町	-	-	0.9	五島市本山	-	-	0.1	五島市富江町	-	-	0	壱岐市郷ノ浦町大原	-	-	0.6	壱岐市石田	-	-	0.6	合計(平均)	1734	1	39.3	平年	-	1.3	8.9
表 各地点のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率と生息密度																																																																																																
調査地点	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	生息密度 注)																																																																																													
長崎市琴海戸根町	100	0	9.1																																																																																													
長崎市神浦丸尾町	97	2.1	4.7																																																																																													
西海市大瀬戸町	-	-	0.1																																																																																													
諫早市小野島町	150	0	151																																																																																													
諫早市森山町	200	1.5	140																																																																																													
諫早市多良見町	200	2	5.1																																																																																													
諫早市小船越町	150	0	184																																																																																													
大村市鈴田	200	2	144.9																																																																																													
東彼杵町三根	64	1.6	8.9																																																																																													
波佐見町岳辺田	200	0.5	66.8																																																																																													
雲仙市国見町神代	149	0.7	16.7																																																																																													
佐世保市長畑町	165	1.2	12.1																																																																																													
佐世保市重尾町	-	-	0																																																																																													
松浦市御厨町	59	0	0.9																																																																																													
平戸市紐差町	-	-	0.9																																																																																													
五島市本山	-	-	0.1																																																																																													
五島市富江町	-	-	0																																																																																													
壱岐市郷ノ浦町大原	-	-	0.6																																																																																													
壱岐市石田	-	-	0.6																																																																																													
合計(平均)	1734	1	39.3																																																																																													
平年	-	1.3	8.9																																																																																													
注意報	7月15日	ぶどう	べと病	1. 発生地域(対象地域) 県下全域 2. 発生程度 多 3. 注意報発令の根拠 (1) 7月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率6.8%(平年0.2%)、発生圃場率83.3%(平年9.4%)で、過去10年間で最も発生が多い。 (2) 6月中旬～下旬にかけて降水量が多く、本病の発生に好適であった。 4. 防除対策 (1) 本病は発病後 2～3 日後には葉裏の病斑上に白いカビが発生し、2次伝染を繰り返す。短期間に被害が拡大するので、薬剤防除を行っていない園では早急に実施する。 (2) 8月以降降雨が多い場合や、9月以降気温が低下すると発生が増加するので、収穫後も防除を徹底する。 (3) 収穫後も防除を徹底し、葉の早期落葉を防ぐ。また、感染した枝葉や落葉は感染源となるので、園外に持ち出し処分する。 (4) 収穫時期が迫っているので、農薬使用基準(特に使用時期)に注意する。																																																																																												



図1 ベと病(葉表)



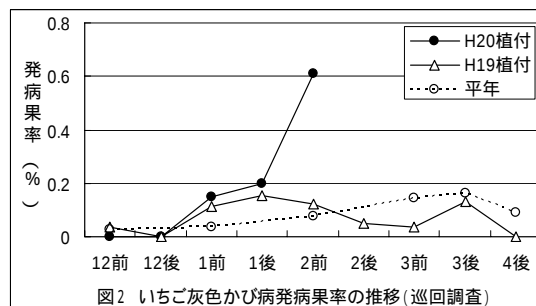
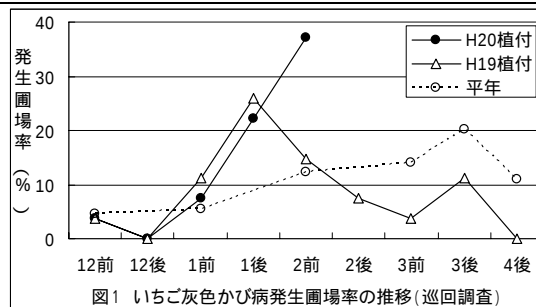
図2 ベと病(葉裏)

注意報	9月12日	果樹	カメムシ類	1. 発生地域(対象地域) 県下全域 2. 発生程度 多 3. 注意報発令の根拠 (1) 6月下旬に実施したヒノキきゅう果着生状況調査の結果、県内のヒノキきゅう果の着生量は平年よりやや多い。 (2) 8月下旬に実施したヒノキ樹上での果樹カメムシ類の寄生数は、1枝当たり1.7頭(平年0.8頭)と平年より多く(表1)、過去10年間で3番目に多い。 (3) 9月上旬に実施した巡回調査の結果、かんきつでの発生圃場率は2.6%(平年0.6%)と平年より高く、大村市のなし園とぶどう園でカメムシが多発している圃場が見られた。 (4) 8月中旬以降、かんきつ園への飛来が確認されており、一部の圃場では落果などの被害が発生している。 (5) 7月下旬に実施したヒノキきゅう果の口針鞘数調査によって予測した果樹園への予測飛来日より、今後、さらに果樹園への飛来が増加することが考えられる。 4. 防除対策 (1) 飛来時期や飛来量は園によって差があるので、発生状況に十分に注意し、早期発見、早期防除に努める。特に着色が早い園では集中的に加害されることがあるので注意する。 (2) カメムシ類は夜間に飛来し、加害することが多いので、防除は夕方または早朝に行う。 (3) 極早生温州などは収穫時期が近づいているので、薬剤散布に際しては農薬使用基準に注意する。																																																																																																																																																																						
				表1 ヒノキ1枝当たり果樹カメムシ寄生数(8月下旬) <table><tr><th rowspan="2">ヒノキ 枝当たり虫数(頭)</th><th colspan="5">チャバネアオカメムシ</th><th colspan="5">ツヤアオカメムシ</th><th rowspan="2">合計</th></tr><tr><th>成虫</th><th>老齢</th><th>中齢</th><th>若齢</th><th>計</th><th>成虫</th><th>老齢</th><th>中齢</th><th>若齢</th><th>計</th></tr><tr><td>10年</td><td>0.05</td><td>0.11</td><td>0.12</td><td>0.06</td><td>0.34</td><td>0.01</td><td>0.01</td><td>0.02</td><td>0</td><td>0.04</td><td>0.38</td></tr><tr><td>11年</td><td>0.56</td><td>0.39</td><td>0.27</td><td>0.34</td><td>1.56</td><td>0.07</td><td>0.06</td><td>0.03</td><td>0</td><td>0.16</td><td>1.72</td></tr><tr><td>12年</td><td>0.09</td><td>0.18</td><td>0.13</td><td>0.09</td><td>0.49</td><td>0.01</td><td>0.03</td><td>0.01</td><td>0</td><td>0.05</td><td>0.54</td></tr><tr><td>13年</td><td>0.77</td><td>0.39</td><td>0.29</td><td>0.21</td><td>1.66</td><td>0.06</td><td>0.00</td><td>0.01</td><td>0</td><td>0.07</td><td>1.73</td></tr><tr><td>14年</td><td>0.02</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.02</td><td>0.05</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0</td><td>0.05</td><td>0.07</td></tr><tr><td>15年</td><td>0.34</td><td>0.19</td><td>0.24</td><td>0.10</td><td>0.87</td><td>0.02</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.02</td><td>0.89</td></tr><tr><td>16年</td><td>0.03</td><td>0.03</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.06</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.06</td></tr><tr><td>17年</td><td>0.61</td><td>0.29</td><td>0.24</td><td>0.34</td><td>1.47</td><td>0.07</td><td>0.01</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.08</td><td>1.55</td></tr><tr><td>18年</td><td>0.08</td><td>0.03</td><td>0.00</td><td>0.11</td><td>0.22</td><td>0.02</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.02</td><td>0.24</td></tr><tr><td>19年</td><td>0.10</td><td>0.31</td><td>0.15</td><td>0.10</td><td>0.66</td><td>0.02</td><td>0.03</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.05</td><td>0.71</td></tr><tr><td>平年</td><td>0.26</td><td>0.19</td><td>0.14</td><td>0.13</td><td>0.74</td><td>0.03</td><td>0.01</td><td>0.01</td><td>0.00</td><td>0.05</td><td>0.79</td></tr><tr><td>20年</td><td>0.69</td><td>0.04</td><td>0.03</td><td>0.04</td><td>0.79</td><td>0.78</td><td>0.14</td><td>0.01</td><td>0.01</td><td>0.90</td><td>1.69</td></tr></table> 14年は9月上旬調査	ヒノキ 枝当たり虫数(頭)	チャバネアオカメムシ					ツヤアオカメムシ					合計	成虫	老齢	中齢	若齢	計	成虫	老齢	中齢	若齢	計	10年	0.05	0.11	0.12	0.06	0.34	0.01	0.01	0.02	0	0.04	0.38	11年	0.56	0.39	0.27	0.34	1.56	0.07	0.06	0.03	0	0.16	1.72	12年	0.09	0.18	0.13	0.09	0.49	0.01	0.03	0.01	0	0.05	0.54	13年	0.77	0.39	0.29	0.21	1.66	0.06	0.00	0.01	0	0.07	1.73	14年	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	0.05	0.00	0.00	0	0.05	0.07	15年	0.34	0.19	0.24	0.10	0.87	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	0.89	16年	0.03	0.03	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	17年	0.61	0.29	0.24	0.34	1.47	0.07	0.01	0.00	0.00	0.08	1.55	18年	0.08	0.03	0.00	0.11	0.22	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	0.24	19年	0.10	0.31	0.15	0.10	0.66	0.02	0.03	0.00	0.00	0.05	0.71	平年	0.26	0.19	0.14	0.13	0.74	0.03	0.01	0.01	0.00	0.05	0.79	20年	0.69	0.04	0.03	0.04	0.79	0.78	0.14	0.01	0.01	0.90	1.69
ヒノキ 枝当たり虫数(頭)	チャバネアオカメムシ					ツヤアオカメムシ					合計																																																																																																																																																															
	成虫	老齢	中齢	若齢	計	成虫	老齢	中齢	若齢	計																																																																																																																																																																
10年	0.05	0.11	0.12	0.06	0.34	0.01	0.01	0.02	0	0.04	0.38																																																																																																																																																															
11年	0.56	0.39	0.27	0.34	1.56	0.07	0.06	0.03	0	0.16	1.72																																																																																																																																																															
12年	0.09	0.18	0.13	0.09	0.49	0.01	0.03	0.01	0	0.05	0.54																																																																																																																																																															
13年	0.77	0.39	0.29	0.21	1.66	0.06	0.00	0.01	0	0.07	1.73																																																																																																																																																															
14年	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	0.05	0.00	0.00	0	0.05	0.07																																																																																																																																																															
15年	0.34	0.19	0.24	0.10	0.87	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	0.89																																																																																																																																																															
16年	0.03	0.03	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06																																																																																																																																																															
17年	0.61	0.29	0.24	0.34	1.47	0.07	0.01	0.00	0.00	0.08	1.55																																																																																																																																																															
18年	0.08	0.03	0.00	0.11	0.22	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	0.24																																																																																																																																																															
19年	0.10	0.31	0.15	0.10	0.66	0.02	0.03	0.00	0.00	0.05	0.71																																																																																																																																																															
平年	0.26	0.19	0.14	0.13	0.74	0.03	0.01	0.01	0.00	0.05	0.79																																																																																																																																																															
20年	0.69	0.04	0.03	0.04	0.79	0.78	0.14	0.01	0.01	0.90	1.69																																																																																																																																																															

注意報	2月12日	たまねぎ	白色疫病・べと病	1. 発生地域(対象地域) 県下全域 2. 発生程度 多 3. 注意報発令の根拠 (1) 白色疫病 ア 2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率0.4%(平成0.0%)、発生圃場率26.7%(平成2.5%)であり、平年より発生が早く、発生圃場率、発病株率ともに高い。 イ 気象予報(福岡管区気象台、平成21年2月6日発表)によると九州北部の向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込みであり本病の発生に好適である。 図1 白色疫病発生圃場率の推移(巡回調査) 図2 白色疫病発病株率の推移(巡回調査) (2) べと病 ア 2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率0.1%(平年:発生を認めない)、発生圃場率13.3%(平年:発生を認めない)であり、平年より発生が早く、発生圃場率が高い。 イ 気象予報(福岡管区気象台、平成21年2月6日発表)によると九州北部の向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込みであり本病の発生に好適である。 図3 べと病発生圃場率の推移(巡回調査) 図4 べと病発病株率の推移(巡回調査)
------------	--------------	-------------	-----------------	--

			4. 防除対策 (1) 白色疫病 ア 症状は、初め中央部付近に不整形で周縁がやや不鮮明な油浸状の青白色病斑を生じ、病斑が拡大すると葉が下垂したり、よじれたりする。病斑が古くなると白色～灰白色となり、健全部との境は明瞭となる(写真参照)。生理障害である葉先枯れ症状と混同しやすいので注意する。 イ 排水につとめ、過湿を避ける。 ウ 十分圃場観察を行い早期発見に努め、発生を認めたら速やかに薬剤防除を行う。 エ 罹病した葉、枯死した葉は感染源となるので、適切に処分する (2) べと病 ア 越冬した罹病株は、全体に草丈が低く、葉につやが無く、やや黄化して外に湾曲し、温湿度が高いと全身に白色のつゆ状または暗紫色のカビが生じる。発見したら二次感染が始まる前に抜き取り、適切に処分する。 イ 肥料切れしないように肥培管理を適切にする。 ウ 発生初期のうちに速やかに薬剤散布を行う。薬剤耐性菌を生じるおそれがあるので、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。 図5 白色疫病の病徴 左：発生圃場 左下：発病株(全身図)
--	--	--	---

				図 6 ベと病発生圃場 図 7 ベと病の発病状況(表面にかびを生じる)
注意報	2月12日	いちご	灰色かび病	1. 発生地域(対象地域) 県下全域 2. 発生程度 多 3. 注意報発令の根拠 (1) 2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率0.6%(平年0.1%)、発生圃場率37.0%(平年12.3%)で、過去10年間で最も発生が多い。 (2) 気象予報(福岡管区气象台、平成21年2月6日発表)によると、九州北部の向こう1ヶ月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込みであり本病の発生に好適である。



4. 防除対策

- (1) 多湿にならないよう圃場の排水に留意し、換気をこまめに行う。
- (2) 予防的な薬剤防除に努める。曇雨天時はくん煙剤を利用する。
- (3) 発病した果実や枯死葉は、伝染源となるので速やかに取り除き、施設外へ持ち出して適切に処分する。
- (4) 耐性菌の出現を避けるため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。



図3
灰色かび発病果(1)



図4
灰色かび発病果
(2)

注意報	2月16日	きゅうり	うどんこ病	1. 発生地域(対象地域) 県下全域 2. 発生程度 多 3. 注意報発令の根拠 (1) 2月上旬の巡回調査(11筆)における発病葉率は13.4%(平年5.2%)、発生圃場率は90.9%(平年57.8%)で、過去10年で最も発生が多い(図1、2)。 (2) 気象予報(福岡管区气象台、平成21年2月13日発表)によると、九州北部の向こう1ヶ月の気温は高く、降水量は平年並が多い見込みであり本病の発生に好適である。 図1 きゅうりうどんこ病発生圃場率の推移 図2 きゅうりうどんこ病発病率率の推移 4. 防除対策 (1) 通風不良、高温多湿のとき発生が多いので、排水に努めるとともに換気に注意して温度格差を小さくし、通風・採光を良くする。 (2) 病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。 (3) 薬剤耐性菌を生じる恐れがあるので、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
注意報	3月16日	いちご トマト	灰色かび病	1. 発生地域(対象地域) 県下全域 2. 発生程度 いちご 多 トマト やや多 3. 注意報発令の根拠 3月上旬の巡回調査の結果、いちご(27筆)の発病果率0.9%(平年0.1%)、発生圃場率33.3%(平年14.0%)と多い発生、トマト(12筆)の発病果率1.1%(平年0.2%)、発生圃場率41.7%(平年25.0%)とやや多い発生であった。 図1 いちご灰色かび病発生圃場率の推移(巡回調査) 図2 いちご灰色かび病発病率率の推移(巡回調査) 図3 トマト灰色かび病発生圃場率の推移 図4 トマト灰色かび病発病率率の推移 4. 防除対策 (1) 多湿にならないよう圃場の排水に留意し、換気をこまめに行う。 (2) 予防的な薬剤防除に努める。曇雨天時はくん煙剤を利用する。 (3) 発病した果実や葉は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外へ持ち出して適切に処分する。 (4) 耐性菌の出現を避けるため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。 (5) トマト、いちご以外の作物(きゅうり、なす等)についても、本病の発生に十分注意する。

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
特殊報	平成20年 5月1日	トマト	すすかび病	1 病害虫名 すすかび病 2 病原名 <i>Pseudocercospora fuligena</i> (Roldan) Deighton 3 発生物及び発生場所 トマト 大村市 4 発生確認の経過 平成20年3月、大村市の施設栽培トマト(品種：麗容)において、葉の表面に淡黄褐色の病斑を生じ、葉裏に灰褐色粉状のかびを生ずる株が認められた。病徴は葉かび病に酷似していたが、顕微鏡で確認したところ、葉かび病とは明らかに異なる分生子が認められ、総合農林試験場で確認した結果、本県では未発生のトマトすすかび病であることが判明した。 本病は平成8年に宮崎県で確認されて以降、これまでに1府17県で発生し、特殊報が発表されている。九州においても宮崎県のほか、熊本県、鹿児島県、佐賀県、大分県で報告されている。 5 感染植物 トマト以外の植物では確認されていない。 6 病徴 葉に発病する。初め葉裏に不明瞭な淡黄緑色の病斑が現れ、やがて灰褐色の粉状のかびを生じる。病斑はしだいに拡大し、円形あるいは葉脈に囲まれた不整形病斑となり、灰褐色～黒褐色に変わる。葉の表面にも裏面よりやや遅れて同様の病斑を生じるが、裏面に比べて少ない。発病は下位から中位葉にとどまり、葉かび病に比べ上位葉への進展は少ない傾向にある。 病斑が葉かび病に酷似しており、肉眼では本病か葉かび病かの見極めが難しい(図1、2)。 7 病原菌の特徴 糸状菌の一種で不完全菌類に属する。生育適温は 26～28℃、分生子の形成適温は 18～22℃、分生子の発芽適温は 26℃前後である。分生子は淡褐色の鞭状または円筒状で、先端は少しくびれ、小型の油胞がある。大きさは様々(13.3～170.3×2.7～5.6μm)で、0～15個の隔壁がある。 なお、葉かび病の分生子は単胞ないし2胞、大きさ 14～38×5～9μm で、すすかび病と明らかに異なる(図3、4)。 8 発生生態 被害植物の残渣で越冬し、翌年の伝染源となる。多湿条件下で発病しやすく、密植、過繁茂、換気不十分の施設栽培で発病しやすい。葉かび病は晩秋～春に発病しやすく、肥料切れや草勢の衰えが発生を助長するが、すすかび病は真夏から秋にかけて発生が多く、高温時期や草勢の旺盛なトマトにおいても発生すると考えられている。 9 防除対策 (1)多湿条件下で発病しやすいので、密植や過繁茂、施設内の換気を行う。 (2)発病葉などの残渣は伝染源となるため、施設外に持ち出して適切に処分する。 葉かび病耐病性品種に葉かび病の症状が発生している場合、本病の疑いが強いので特に注意する。  図1 トマトすすかび病の病徴

				 図2 トマト葉かび病の病徴
				 図3 トマトすすかび病の分生子
				 図4 トマト葉かび病の分生子

			(2) ミナミキイロアザミウマの侵入防止と防除 ア 育苗期から本圃にかけて、ミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。薬剤による防除を行う場合は、薬剤への感受性低下を防ぐため、同一成分系薬剤の連続使用を避け、ローテーションで使用する。 イ ミナミキイロアザミウマは芽に潜り込みやすいので、芽かきした摘葉は残さず集めて施設外に持ち出し、土中に埋めるか、ビニール袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。 ウ ハウス開口部に防虫ネット(0.8 mm以下)等を設置するとともに、紫外線カットフィルム等の物理的防除法を積極的に活用して、施設内へのミナミキイロアザミウマの侵入を防ぐ。 エ 青色(もしくは黄色)粘着トラップを施設内に設置し、媒介虫の早期発見に努める。 オ 栽培終了時に密閉陽熱(蒸し込み)処理等を行い、ミナミキイロアザミウマを死滅させて、施設外への分散を防ぐ。 (3) その他 本病と疑われる症状が発生した場合は、病害虫防除所や最寄りの農業改良普及センターに連絡する。 図1 初期症状(葉脈透過) 図2 上位葉のモザイク症状 図3 葉脈に沿った退緑
--	--	--	--

				 図4 えそ斑
				 図5 黄化及びえそ
				 図6 全身に発病した株
特殊報	平成20年 5月22日	レタス	根腐病	1 病害虫名 レタス根腐病 2 病原菌名 <i>Fusarium oxysporum</i> Schlechtendahl:Fries f.sp. <i>lactucae</i> Matuo&Motohashi 3 発生作物 レタス 4 発生場所 諫早市森山町、雲仙市南串山町 5 発生確認の経過 平成19年10月下旬、諫早市森山町のレタス圃場において、外葉の黄化・枯死を伴う萎凋症状が発生した。12月には雲仙市南串山町でも同一症状の発生圃場を確認した。長崎県病害虫防除所において、九州沖縄農業研究センター暖地施設野菜花き研究チームと共同で発病株の根部から病原菌を分離・同定を行った結果、本菌はレタスに対して病原性を有し、本県では未確認のレタス根腐病であることが、平成20年5月までに判明した。 本病の結球レタスにおける発生については、国内では平成8年に長野県、平成19年に茨城県から特殊報が発表されている。 6 病徴および被害 はじめ外葉の一部が葉縁から黄変・萎凋し、やがて株全体が萎凋して枯死に至る(写真1)。軽症株は枯死しないが、結球不十分で収穫不能となる。主根を縦に切断すると維管束部が褐変しており、容易に診断できる(写真2)。重症株はクラウン部の中心が空洞化する。被害は圃場内で連続的に見られることが多い(写真3, 4)。

			7 病原菌の特徴と発生生態 病原菌は糸状菌の一種で、レタス、サラダナ等のレタス類にのみ発病する。土壌伝染性の病害で、被害株の根部に形成された胞子が土中に残り、伝染源となる。菌は根から侵入し、導管を侵して生育を抑制する。菌の生育適温は28～30℃と高温性である。このため、冬レタスでは定植が早いほど発生が多い。 国内で発生するレタス根腐病菌は、レタス品種間の発病の違いにより3つのレースに分類される。本県で採集された菌株は、レース判別品種を用いた検定の結果、いずれもレース1に類別された(表)。また、野菜茶業研究所 野菜IPM研究チームにおける、DNAマーカーを用いたレース判別においても、いずれもレース1と判定された。 8 防除対策 (1)発生圃場では、発病株や被害残渣をビニール袋等に密封し、太陽熱で高温処理(50℃以上で数日間)する、あるいはレタスを作付する可能性が無い場所の土中に深く埋める。 (2)汚染土壌を人為的に運びださないよう注意する。発生圃場の作業が最後になるよう計画するとともに、作業終了後はトラクター等の農機類や長靴等の洗浄を徹底する。 (3)主にキク科植物の連作により本病の菌密度が高まると思われるので、キク科以外の作物との輪作を行う。 (4)緑肥の作付、完熟堆肥の施用などにより、土壌の理化学性や生物性を改善する。 (5)本病は高温期ほど発生が多いので、高温期に定植する作型は避ける。 (6)発生圃場では、マルチ資材は地温が上昇しにくいもの(白黒ダブル等)を使用する。 (7)品種によっては、本病に対して耐病性があることが知られている。ただし、西南暖地における栽培特性や病原菌密度と発病程度の関係など、本県における有効性は明らかでない。 (8)本病の化学的防除法として、クロルピクリンくん蒸剤及びカーバムナトリウム塩液剤等を用いた土壌消毒がある。 写真1 発病株の外観 写真2 発病株の主根断面 写真3 発生圃場の状況
--	--	--	---

			 写真4 多発圃場の状況 表 レタス根腐病菌各レースに対する判別品種の反応と県内の発生圃場から分離された菌株の反応 <table><tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">地点名 または レース№</th><th colspan="3">判別品種</th><th rowspan="2">判 定</th></tr><tr><th>晩抽レッド ファイヤー</th><th>コスタリカ 4号</th><th>パトリオット</th></tr><tr><td rowspan="2">分離菌株の反応</td><td>諫早市森山町</td><td>S</td><td>R</td><td>S</td><td>レース1</td></tr><tr><td>雲仙市南串山町</td><td>S</td><td>R</td><td>S</td><td>レース1</td></tr><tr><td rowspan="3">各レースの反応</td><td>レース1</td><td>S</td><td>R</td><td>S</td><td></td></tr><tr><td>レース2</td><td>R</td><td>S</td><td>S</td><td></td></tr><tr><td>レース3</td><td>S</td><td>S</td><td>S</td><td></td></tr></table> S:感受性、 R:抵抗性		地点名 または レース№	判別品種			判 定	晩抽レッド ファイヤー	コスタリカ 4号	パトリオット	分離菌株の反応	諫早市森山町	S	R	S	レース1	雲仙市南串山町	S	R	S	レース1	各レースの反応	レース1	S	R	S		レース2	R	S	S		レース3	S	S	S	
	地点名 または レース№	判別品種				判 定																																	
		晩抽レッド ファイヤー	コスタリカ 4号	パトリオット																																			
分離菌株の反応	諫早市森山町	S	R	S	レース1																																		
	雲仙市南串山町	S	R	S	レース1																																		
各レースの反応	レース1	S	R	S																																			
	レース2	R	S	S																																			
	レース3	S	S	S																																			
特殊報	平成20年 10月10日	ひまわり	アワダチソウグンバイ	1 病害虫名 アワダチソウグンバイ 2 学 名 <i>Corythucha marmorata</i>(Uhler) 3 発生作物 ひまわり 4 発生場所 長崎市香焼町 5 発生確認の経過 平成20年9月に長崎市香焼町で、花壇として管理されていた生育不良のひまわりにグンバイムシが寄生しているとの連絡があり、9月4日に現地を調査したところ、ひまわりの葉に寄生する成虫および幼虫を確認した。 現地で採集した成虫を農林水産省門司植物防疫所に同定依頼したところ、アワダチソウグンバイであることが確認された。 本種は北米原産の侵入害虫で、国内では平成12年に兵庫県で初確認され、平成17年頃から急激に全国に分布が拡大している。九州では佐賀県、熊本県から特殊報が発表されている。 6 形態および生態 (1)形態 成虫の体長は約3mm、軍配に似た形状をしている。前翅の周辺部に顕著な小棘を列生し、前翅には多数の不定形褐色斑がある(写真5、6)。 幼虫は全身が褐色の紡錘形で、翅芽の基部や腹部の基部がやや暗褐色になる(写真4)。 (2)生態 他県の報告によるとセイタカアワダチソウで成虫で越冬して4月中旬に第1世代が発生し、その後、羽化成虫が作物に飛来し、加害が始まる。 成虫、幼虫ともに葉裏に寄生し、主に幼虫が集団で吸汁加害する。加害時期は5～10月頃まで、成虫発生ピークは7～8月である。 7 被害の特徴 吸汁により被害葉の表面はカスリ状に白変し、排泄物により茎葉に汚れが発生する。加害が進行すると葉が黄化、枯死する。 8 寄主植物 これまでに国内では、下記の植物で本種の寄生・加害が確認されている。 キク科作物:きく、ひまわり、ノコンギク、シオン、ヒャクニチソウ、ユリオブスデージー、ククイモ、食用ぎく キク科雑草:セイタカアワダチソウ、ブタクサ、オオブタクサ、オオアレチノギク、オオオナモミ、ヨモギ、ヒメムカシヨモギ、ヨメナ ヒルガオ科:かんしょ ナス科:なす																																			

				9 防除対策 圃場周辺のセイタカアワダチソウ等のキク科雑草は、本種の発生源となるため、除草を徹底する。 10 参考文献 横浜植物防疫所 病害虫情報 77:4-5(2005)「わが国で新たに発生し分布を拡大しているゲンバイムシ」 写真1 ひまわりの被害葉(表) 写真2 ひまわりの被害葉(裏) 写真3 葉裏面の成虫および幼虫と排泄物 写真4 老齢幼虫 写真5 成虫全体図
--	--	--	--	--

				 写真6 成虫頭胸部拡大図 (写真4～6:横浜植物防疫所原図)
--	--	--	--	--